



ネットに流した犯人はだれだ!?

みつからないのは、みんなが加害者だから!?

いじめはやめられる!

—みんな加害者—

いじめはなくなる。やめさせられない…。

ぼくらは最初っからそう決めつけて、クラスで観衆や傍観者になってはいないだろうか…。

いじめは、ぼくら自身の問題なんだ。

だって、楽しい人生を生きるか、生きないかはぼくら次第なんだから。

少しずつ、小さな勇気を持ち寄ることで、いじめはきっとやめられる!

上映時間 17分 [C#7499]

DVD 69,300円(本体66,000円)

※消費税の変動により販売価格は変更の可能性があります。



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17
<http://www.toei.co.jp/edu/>

いじめはやめられる!

—みんな加害者—

企画 意図

いじめは、クラス内に観衆や傍観者が生まれることで大きくなると同時に、大人の眼には見えなくなっていく。また昨今では、多くの観衆を求めて、ネット上にいじめの動画を流すという事案も出てきました。観衆・傍観者であれば、加害者ではないのか…。いじめを受け入れてしまうひとりひとりにならないために何が必要なのか。子どもたちに、いじめについて新たな問題を提起するドラマ形式の教材です。

内容

飯島が学校に登校してくると、クラスの連中が顔を隠し、一言もしゃべらない…。いじめに遭っていた山本はいう。「ホウリツが変わったのさ。いじめをしていた奴。いじめを知っていて、見て見ぬふりをしていた奴。なんにもしなかった奴は、全員、加害者として罰せられるんだ…」。



だが、それは飯島の夢だった。ところが登校してみると、田中が山本をいじめている動画がネット上にアップされていた!田中に無理に付き合わされ、山本のいじめを見させられていた竹村は、自分と飯島がいじめの現場に映っていることで犯人に疑われる事を恐れる。案の定、教師から飯島と竹村は、動画を撮影した人間は誰なのかと聞かれる。

しかし、飯島も竹村も、クラスのほかの生徒も心当たりがない。そればかりか、加害者の田中さえ、動画をネットにアップしていないと否定する。田中は警察の聴取を受けるが、被害者の山本は転校していく。結局、田中が動画をアップしたという証拠はなかった…。



クラスの生徒たちは、やっかいものがいなくなってよかった…動画をネットにアップしたのは田中だと決めつけ、自分たちが傍観者だったことを忘れようとする。「オレたちの心が、田中や山本みたいな奴をつくったんじゃないのか?」。クラスに問いかける飯島の言葉も無視される。

「ほくたちみんなが、ネットに流した奴と同じだよ。見てるくせに何もしなかった…できなかった…。そうだろ?」



いじめがなくなる原因は、自分たち自身にあるのではないか…。ドラマに出演した中学生の生徒たちが、いじめをなくすために何が自分たちに必要か、役を通じて考え、問いかけ、自分たちの問題として話し合います。